

- 五〇二九 「期物」
- 五〇三〇
- 五〇三一
- 五〇三二
- 五〇三三
- 五〇三四
- 五〇三五
- 五〇三六
- 五〇三七
- 五〇三八
- 五〇三九―四〇
- 五〇四一
- \* 五〇四二―四三
- 五〇四四
- 五〇四五
- 五〇四六
- 五〇四七
- 五〇四八
- 五〇四九

夫れ處なる者は物を容れ、物は處に居る、

時なる者は期を率い、期は時に従う、故に

處と時と經緯を偶す、

物と期と經緯を偶す、故に

今は能く事を見すと雖も、而れども諸を物に立てざれば、則ち將た奚んか爲さん、

處は能く物を露すと雖も、而れども諸を期に移さざれば、則ち將た奚んか成らん、

期は物に因りて事を成す、

物は期に因りて功を畢う、

處なる者は塊然たり、物にして後、紀する所有り、

時なる者は衰焉たり、期にして後、紀する所有り、

其の物は則ち天地なり、天は規矩を有し、東西南北を成す、

地は拗突を有し、湖海山野を成す、

時なる者は時氣なり、期に往來有り、緩急盈縮を見す、故に

時に會違有り、明暗寒熱を示す、故に

湖海山野は、東西南北に依りて、方處を紀す、

明暗寒熱は、緩急盈縮に依りて、節序を成す、

天地は物を成す、節序は期を成す、是に於てか。

物は事を成す、

(PB 368) (I 434b)

五〇五〇  
 五〇五一  
 五〇五二  
 五〇五三  
 五〇五四  
 五〇五五  
 五〇五六  
 五〇五七  
 五〇五八  
 五〇五九

期は功を畢おう、  
 衰こんは窮きわまらず、  
 塊おは無む垠ぎんなり、  
 大物だいぶつは塊おに居おりて窕ちようせず、  
 小物しょうぶつは天地てんちを分わかちて竝ならび居おる、  
 長期ちようきは衰こんに從したがいて已やまず、  
 短期たんきは歳さい月げつを追おいて及およばず、  
 大小だいし長短ちようたん。亦また自おのから統散とうさん有あり。  
 統中とうちゆうは、則すなわち天てんは大だいにして、  
 散中さんちゆうは、則すなわち天地てんちは大だいにして、  
 期きは則すなわち始終ししゆうす、  
 物ぶつは則すなわち天地てんちす、  
 故ゆえに其その物ぶつたるや大だいなり、  
 故ゆえに其その物ぶつたるや小しょうなり、  
 故ゆえに其その期きたるや長ちようなり、  
 故ゆえに其その期きたるや短たんなり、  
 而しかして其その期きたるや短たんなり、  
 而しかして萬物ばんぶつは小しょうに、  
 而しかして地ちは小しょうに、  
 而しかして萬物ばんぶつは小しょうに、  
 轉てんは長ちようにして運うんは短たんなり、  
 運轉うんてんは長ちようにして衆期しゆうきは短たんなり、  
 始終ししゆうなる者ものにして、  
 天地てんちなる者ものにして、  
 而しかも長ちよう有あり短たん有あり、  
 而しかも大だい有あり小しょう有あり、  
 而しかして  
 而しかして  
 而しかして  
 而しかして

(PB 369)